



定本

上田敏全集

第六卷

談話及講演
學生時代作品

昭和五十五年五月二十五日 発行

定本 上田敏全集 第六巻

定價 14000円

責任編集 上田敏全集刊行會

(代表) 矢野峰人

発行者 柴崎芳夫

發行所 株式会社 教育出版センター

東京都豊島区北大塚三一―二二
電話〇三一九一七一八九四〇(代)

限定五〇〇部の内 第五回

番

編集委員
矢野峰人
嘉治隆謹
島田謙
松村安
森田持
松田保
安田武
森田持
佐々木滿
子彦亮
子彦亮
人二
人一
人

上田敏全集

第六卷

目次

談話及講演
學生時代作品

解說・編注

談話及講演

—外遊前—

白馬會畫評	三
金色夜叉に就て	一六
兩浦島の脚本評	一〇
「オセロ」の翻案と原作と	一四
ダンテの番附	一六
故樋口一葉	三
白馬會所感	毛
新體詩管見	四
文學者と讀者	観
「辯説法」を觀て	六
好戰論者と不好戰論者	五
白馬會畫評	七
本郷座一番目「フランチエスカの悲戀」	六
新樂劇論並に新曲浦島を讀みて	八
	八

音楽振興策	さ
如何にして外國文學を研究すべき	四
「畏」	九
青年小説家に望む	一〇三
春鳥集合評	一〇五
器樂の基礎	一一〇
本邦將來の器樂に就きて	一一三
思想劇	一二七
余の愛讀書	一二三
今後の劇	一三四
根本の研究	一五六
詩話	一四二
新劇趣味	一四四
わが愛づる音樂	一四五
漫言	一五五
中世文學	一五六
一葉女史	一七四

樂曲の選擇	一五
歐洲に於ける自然主義	一七
近代の小説	一九
音樂の發達は何故鈍いか	一七
思想劇	一六
文藝と社會	一三
 —外遊後—	
土產話	一〇三
一葉女史追憶談	一〇六
西遊印象談	一〇八
日本文壇を評す	一一四
滯歐所感	一二一
漫遊雜感	一二七
「春」	一三五
歌枕	一三七
歐米見聞談	一四三

談片	一九
巴里の新劇	一五
文藝の勢力	一七〇
自然主義の爲に論ず	一七四
趣味と道德と社會	一七五
青年と政治思想	一六
「假面」を見て	一六六
金曜瑣談	一五
現代人の倫理觀	一五
宗教の側面觀	一五
標準語	一〇五
シェイクスピアの劇論	一〇六
團、菊、左時代と其後	一一〇
任俠的偉人を憶ふ	一一五
現代思想	一三九
宗教と道德	一三三
我國文學の現狀	一三〇

道徳の辭職.....三九

近代劇.....西一

犯罪と文藝.....五

わが團十郎觀.....九

現代と宗教.....三三

藝術としての文學.....三三

おもひつき.....三七

染織の圖案.....三七

思想より見たる戰爭.....二一

ダンテの詩論.....二一

大嘗宮の御儀.....二六

沙翁に對する態度.....二六

學生時代作品

列聖屢遷都說	四〇六
從軍日記	四三
大鏡三乃卷を讀む	四三
道隆道兼道長の人物を論ず	四〇
勸學の詞	四四
古代風俗考	四四七
 二	
文學に就て	四六
「小說界の二主義」を讀む	四七
美術論	四八
鏡川漁郎に答ふ	四九
吸江釣徒の批評に答ふ	五〇
文豪ティン逝く	五一
春さり夏來る	五九
音樂部臨時演奏會	五一
春の夕に基督を憶ふ	五〇三

尙志會雑誌第壹號を讀む	五九
畫學會畫評	五四
畫學會	五五
音樂部演奏會批評	五〇
 三	
アヂソン	五六
「レ・ミゼラブル」を讀む	五四
落葉のはきよせ	五七
無名會の隆盛を祝す	五一
日本文學史を讀みて今日英文學の教授法に及ぶ	五四
わが師わが友	五七
月	五八
清少納言と「らすきん」	五九
五人女を購ふの詞	五六
夢現境	五〇
明治の文學	五一

音樂論	五九〇
和歌數首	五四
忘れ形見を評す	五六
磯びたひ	六〇一
名殘の藤浪	六〇九
敏行家集（ぬきあつめ）	六一二
青燈一穂	六一五
旗須爲寸	六一八
白菊の詞	六二四
阿騎乃大野	六二七
油地獄につきて江川君の質議に答ふ	六三〇
拈華庵漫筆	六三一
希臘の審美論	六三九
お犬婆々	六四三
洛屈斯禮闈	六四七
蒙度	六五三
七里が濱	六六六

絃なき琴にあはせたる歌	六一
無絃堂漫話	六二
御家騒動	六三
朝寢坊に告ぐる文	六四
ホオマアの墓に咲ける薔薇	六五
落花流水	六六
柳村漫錄	六七
秋のながよの記	六八
漫言	六九
法文兩科の諸士に告ぐ	七〇
解説	七一
編注	七二
安田保雄	七三

四

談話及講演

外遊前

白馬會畫評

黒田清輝君

孰れも悪いことはありますまいが、私の氣に入つたのから云ふと、「夕照」、「海邊の雪」、「江の島遠望」等で、「逗子の海岸」は餘り感服しない。成程逗子は波靜かな處であゝ云ふ風でもありますうが、海岸の渚が何うもボンヤリして海のやうに見えない。湖のやうに見える。唯山や何かの地勢に由つて纔かに海かとも思へる位なものです。

*

成程さうです。肖像といふとぢきに黒い着物を着た赤ら顔を書きますが、以前誰であつたか衆議院に關係ある人の肖像を黒田君が書いて出したことがあるが、あれなどは從來の肖像中では餘程好いやうに思つた。同じ黒田君の曾て出された故外山博士の肖像、今は大學の圖書館にかゝつて居るが、あれなどはよく出來た方だと思ふ。